地域医療センター地域医療連携通信

# にじ

Kochi Health Sciences Center

## 特集
## 平成21年度初期臨床研修医のご紹介 … P2～P3


■ 平成22年度初期臨床研修医募集のお知らせ …… P2～P3
■ 初期臨床研修修了医師からのお便り No.2 …… P4～P5
■ 第26回高知医療センター職員による学会出張報告
（検査診断科 科長 岩田 純 医師） … P6
■ 地域医療連携病院のご紹介（医療法人裕香会 松本医院） …… P7
■ 高知医療センターニュース Vol.2 …… P7
■ 高知医療センターイベント情報 …… P8


6
JUNE.2009 Vol.44

写真：平成21年度採用の高知医療センター初期臨床研修医の皆さん

高知医療センターの基本理念
医療の主人公は患者さん
高知医療センターの基本目標
1．医療の質の向上
2．患者さんサービスの向上
3．病院経営の効率化

# 平成21年度初期

この度４月より、高知医療センターで初期

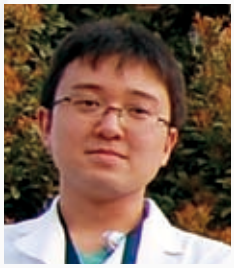
## 岩崎 由佳（いわさき ゆか）

①医科　②高知県　③高知大学
④絵を書くこと、弓道
⑤今年４月から高知医療センターで初期研修をさせていただくことになりました、岩崎由佳と申します。医師としてはまだまだ頼りなく、ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、日々経験を重ね、少しでも早く皆さまのお役に立てるよう努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

## 原田 大輔（はらだ だいすけ）

①医科　②奈良県、大阪府　③岡山大学
④テニス、野球、釣り
⑤高知医療センターは多数の診療科がそれぞれ地域と連携し合い、患者さんにもさまざまな気配りをしながら最新の治療をめざしている病院です。それに加えて病院の風潮として、研修医をはじめ後輩医師に対して教育の制度と熱意があり、医療センターで初期臨床研修をしようと決めました。研修が始まって２ヶ月が経ちますが、このままこの病院で頑張れば、一人前の医師として成長していけると確信しています。まだ未熟で仕事を一つひとつ覚えていく毎日ですが、できる仕事があれば何でもやらせていただきたい所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 森 亮（もり まこと）



①医科　②栃木県
③自治医科大学　④テニス
⑤今年４月より高知医療センターで初期研修をさせていただいております森亮と言います。高知県の医療格差を補うため、自治医科大学に入学し、今年卒業とあいなりました。まだまだ未熟であり、その目的を達するには至りませんが、これからたくさんのことを学び、一歩一歩成長していきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

## 野嶋 剛（のじま つよし）

①医科　②高知県
③岡山大学
④弓道、風呂めぐり
⑤まだ２ヶ月しか経たず、医師の仕事に慣れていませんし不安もありますが、できるだけ多くのことを学びたいと思っています。先生方にご迷惑をおかけすると思いますが、一日も早く皆さまのお役に立てるように精一杯やっていきたいと思います。未熟者ですが、これからもよろしくお願いいたします。

## 平成22年度高知医療センター 研修医募集中！

**平成22年度　高知医療センター初期臨床研修プログラム**

### 研修期間

**平成22年4月1日～平成24年3月31日（2年間）**

### 選考方法および応募資格

**平成22年２月実施予定の医師国家試験合格見込の者**

1）募集方法：公募（マッチングに参加すること）
2）応募必要書類：履歴書、健康診断書
3）選考方法：面接（個別に20分程度）、書類審査
4）申込期限：平成21年７月31日
5）選考日　：平成20年７月24日（金）
　　平成20年８月 9 日（日）
　　平成20年８月22日（土）

### プログラム責任者

高知医療センター　医療局長　武田　明雄

### 主な研修オリエンテーション

**1）研修医セミナー（各診療科科長担当）**
月１～２回開催。研修医の希望を中心にセミナーが企画、開催されている。

**2）院内CPC**
月１回開催。全ての研修医は、研修中の科目を問わず、院内で行われる剖検には積極的に参加し、CPCには研修医全員が参加することが原則とされる。
CPCは月１～２回定期的に開催され、通常１～２例が検討される。研修医は指導医のもとCPCの準備と発表を行う。CPCでの発表後、研修医はその内容についてレポートを作成する。以上の研修は臨床経過と疾患の本態の関連を総合的に理解する能力を修得することを目的とする。

**3）循環器勉強会**　月１回開催。
**4）救命救急センター症例検討会**　月１回開催。
**5）医療安全管理研修会**　月１回開催。

# 臨床研修医のご紹介

**臨床研修を始められた研修医をご紹介します！**

## 小松原 将（こまつばら ただし）

①医科　②岡山県　③岡山大学
④スポーツ、剣道
⑤今年４月より高知医療センターで初期研修をさせていただくことになりました。まだまだ何もわからない、何もできない未熟者で何かとご迷惑をおかけするとは思いますが、一生懸命頑張りますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 本橋 靖子（もとはし やすこ）

①医科　②徳島県（生まれは高知県で小学校２年生までは高知にいました）　③岡山大学　④京都旅行、お菓子作り　⑤４月から高知医療センターで研修させていただくことになりました本橋靖子です。まだ何もわからず、毎日いろいろな方々に迷惑ばかりかけていますが、この２年間で少しでも多くのことを学び、成長したいと思います。そして初心を忘れず、患者さんと接していけるように頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 高橋 実希（たかはし みき）

①医科　②徳島県　③徳島大学
④旅行、温泉めぐり
⑤この２年間で多くのことを経験して、医師として大きく成長したいと思っています。わからないことだらけでご迷惑をおかけすると思いますが、笑顔で精一杯頑張ります。高知県の魅力も満喫したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 仰木 健太（おおぎ けんた）

①医科
②高知県高知市
③高知大学
④旅行、音楽
⑤今年４月から医師となり、この高知医療センターで初期臨床研修をさせていただくことになりました。医師としても、社会人としてもまだまだ未熟でご迷惑をおかけしますが、これからの２年間で少しでも患者さんのお役に立てるよう、努力していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 野町 晃彦（のまち あきひこ）

①歯科　②高知県高知市
③愛知学院大学歯学部
④自動車、野球、飲み会
⑤社会人として、歯科医師として少しでも早く一人前になれるように、地元高知のパワーをもらって頑張りますのでよろしくお願いいたします。

### ６）その他各診療科の症例カンファレンス

各科コースに入っている全ての診療科の臨床症例検討会（カンファレンス）、相談会等に出席する。

### 研修コース：ローテート方式

**研修科**：内科（６ヶ月）、救命救急科（３ヶ月）、地域医療（１ヶ月）、選択必修（外科、麻酔科、小児科、産婦人科および精神科から２科目を計２ヶ月）、自由選択（12ヶ月）

**（ローテート例１）**

| 1年次 | | | | | | | | | | | | 2年次 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 内科 | | | | | | 救命救急科 | | | 選択必須 | 選択必須 | 自由選択 | 自由選択 | 地域医療 | 自由選択 | | | | | | | | | |

**（ローテート例２）**

| 1年次 | | | | | | | | | | | | 2年次 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 内科 | | | | | | 麻酔科 | | 救命救急科 | | 外科 | | 産婦人科 | | 小児科 | | 地域医療 | | 自由選択 | 精神科 | 自由選択 | | | |

※ローテート方式など変更する場合もあります。

### お問合せ先等


**お問い合わせ：高知医療センター事務局（担当 中邑 佳代）**
〒780-8555
高知県高知市池2125－1
ＴＥＬ：088（837）6760
ＦＡＸ：088（837）6766
e-mail：kayo_nakamura@khsc.or.jp
URL：ttp://www2.khsc.co.jp/boshu_top/index.html


◇上記URLの申込みフォームからお申込みください。また、メール、郵便でのお申込みも受付けます。
◇病院見学も随時受付けます。上記URLの申込みフォームからお申込みください。また、メール、郵便でのお申込みも受付けます。

# 初期臨床研修修了医師からのお便り No.2

高知医療センターで初期臨床研修を修了された医師からのお便りをご紹介いたします。

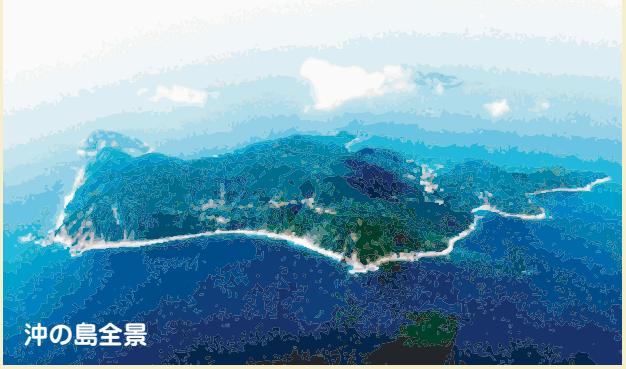
## 吉村 彰人 医師

平成19年3月修了。
現在は沖の島へき地診療所に勤務

私は高知医療センターが開院した直後に、1年目の初期臨床研修医として勤務させていただきました。2年間の臨床研修を修了し、国民健康保険椿原病院で2年間の内科勤務を経て、平成21年4月1日より宿毛市の南西約25kmに位置する離島診療所「沖の島へき地診療所」で勤務しています。3年目からは特に専門分野というものは持たず、来るもの拒まずの総合診療・地域医療に従事しています。

診療所のある母島地区

高知医療センターでの臨床研修2年間を振り返ってみると、当時は右も左も分からないまま、必死になって目の前のことをこなすので精一杯だったような気がします。経験も浅いため、一つの事を成し遂げるのに多大な時間を費やしましたが、多くの熱心な指導医のもとで身につけた一つ一つの知識や経験（失敗も成功も含め）は、私の貴重な財産となり、日々の診療の助けになっています。また、同期の研修医が多かったので、時間を見つけては一緒に飲みに行ったり、お互いの誕生会を開催したりと楽しい思い出もたくさんあります。しかし、もっと多くのことを研修できたのではないだろうかと後悔している面もあります。私自身が少し消極的であったこともあり、もう一歩踏み込んだ研修ができなかったのかもしれません。


沖の島全景

そこで、今後高知医療センターでの研修を考えている先生方に、次のことをアドバイスさせていただきたいと思います。平成22年度からは研修プログラムが内科系6ヶ月、救急3ヶ月を重視するものに変わると聞いています。しかし、プログラムの体制が変わっても、研修医として持っておくべき姿勢に変わりはないと思います。指導医に怒られながらも何でも聞くことができるのは研修医の特権です。一人で考える時間を大事にするとともに、難題は一人で抱え込まず、積極的に指導を仰ぎ一つ一つのことを着実に身につけていってください。また、職場のスタッフや患者さんと良好なコミュニケーションを築くことを忘れないでください。スタッフに助けられることもありますが、患者さんに助けられることもたくさんあるということを後になって実感しました。

まとまりのない文章になったかもしれませんが、私が高知医療センターで経験し感じたことを思いつくままに書いてみました。今後研修を考えている先生にとって少しでも参考になればと思います。

（吉村 彰人）

橋元球一医師（前列左）と外ヶ浜病院スタッフの皆さん

## 橋元 球一 医師

平成19年3月修了。
現在は青森県の外ヶ浜中央病院内科に勤務

ご無沙汰しております。第1期高知医療センター研修医の橋元球一です。

初期研修を終え、青森県津軽半島の中腹にある外ヶ浜中央病院に赴任し2年が経ちました。50床の小さな地域中核病院で内科・整形外科領域を中心に診療しています。方言と気候の違いにはなんとか慣れてきましたが、日常診療で四苦八苦しているのは高次医療機関への搬送対応です。研修医の頃は重症患者さんを

受け入れる立場にあり、とにかくICUに張り付いて朝のカンファレンスで熱心にご指導していただいたことを記憶しています。ここでは直ちに高次医療機関へ搬送すべきか悩むこともありますし、夜間だと一人で受け入れ先を探し、ある程度まで診断し状態を立ち上げて搬送せねばならず、病々連携の重要性を肌で感じています。また、病棟はほとんどが高齢者で心不全や脳梗塞などの合併症を多く抱えており、いわゆる全身管理を要求されます。

研修医時代は各科2ヶ月ということもあり、科によって症例や内容も異なり、心不全管理や人工呼吸管理など重症患者さんを一手に引き受けたことがなく、3年目には大きな壁にぶつかりました。研修2年間はあっという間で、もっと勉強しておけばと後悔することは多々ありますが、ポイントをしっかり教えてもらい、集中してトレーニングすれば1，2ヶ月でも得られることはあると思います。特に手技はやってみないとわからないことが多く、機会があればぜひ挑戦してみて、そこで教科書を読み返せば理解も深まると思います。

平成16年度から導入された初期臨床研修医制度は、基本的な診療能力を習得するために2年間設けられましたが、蓋を開けると都市部への医師集中、地方大学への入局者減少、給与格差の一人歩きなどさまざまな問題が生じ、さらに後期研修で都市部にプールされていた私と同世代の医師達が続々と溢れかえることも予測されます。今後、研修期間が1年間に短縮され、地域枠での医師確保や早期に専門性を高めることなどが期待されますが、今回あまり議論されなかったそれぞれの研修期間での教育システム作りが重要課題だと思われます。出過ぎたこととは思いますが、私は1年であっても将来に繋がる土台作りを教えてもらえるような環境であれば、関心がなかった分野を選択したり、地域に定着したりしていくのではないかと考えています。これから研修医として新たな門出を迎える皆さんには、自分たちの手で研修制度を良くしていって欲しいと切に願っています。

（橋元 球一）

**血液内科医師全員集合**（中村 知志保医師、前段右端）

## 中村 知志保 医師

平成20年3月修了。
現在は大阪市の大阪赤十字病院に勤務

ちょうど1年前、高知医療センターの一室で、副院長、各科の部長が見守るなか、院長から初期研修終了証書を手渡されたことを思い出します。2年間の充実した初期臨床研修を終え、どこか晴々とした気持ちで、修了証書を手に同期の研修医と記念撮影をしました。また3月末で高知医療センターを去られる常勤の先生方とともに、初期研修医の私たちにも盛大な送別会を催していただきました。まるで学校の卒業式のように先生方が温かく送り出してくれたことを、今でも本当に嬉しく、鮮明に思い出すことができます。

あれから1年…。生まれ育った高知を離れ、今私は大阪市内の病院に後期研修医として勤務しています。現在の病院では、初期臨床研修を終えた3年目から5年目の医師を「後期研修医」としています。総病床数は約1,000床、医師数は常勤が約150名、各科の後期研修医が病院全体で約40名、初期研修医が25名と高知医療センターより規模は大きく、日々、患者さんや職員など数多くの人が出入りする病院です。私の専攻科は血液内科ですが、内科のいずれの科を専攻しても、3年目の1年間は救急科2ヶ月を含む内科のローテーションを義務付けられています。どの科をどれくらいの期間研修するかは個人の希望に応じ、自由に選択することができます。

私は初期研修の時に、経験の少ない科を中心に内科のいくつかを勉強させてもらいました。最近では内科も細分化され、専門領域を中心に診療にあたることが多くなっていますが、いろんな病気を併せ持つ患者さんも多く、種々の疾患をどのように治療していくのか、各専門内科を経験でき、大変勉強になりました。今は高知での初期研修医時代に学んだことを土台に、自分に足りない知識・技術を補っていく修行の毎日です。そしてこの春、本格的に血液内科医としてスタートします。

慣れない環境で奮闘した1年でしたが、高知医療センターで経験した全てのことが、糧になっていると感じます。経験が浅い分、知らないことも多くありますが、高知で先生方が知識や手技をしっかり教えてくださったおかげで、今の病院で手技や一般的なことに関して同期にひけを取ることはありませんでした。むしろ地域医療から高度専門医療まで幅広く経験できたと思います。そして他の病院と比べ、いつも先生方がしっかりとサポートしてくれる体制が整っており、研修医として守られていたと感じます。高知医療センターを離れてみて、医療はもちろん、研修の充実を再認識しています。これから大きく成長していつか高知の医療に貢献したい、と感じる今日この頃です。

（中村 知志保）

# 第 26 回：医療センター職員による学会出張報告

高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

## 第 98 回日本病理学会 in 京都

**2009 年 5 月 1 日～ 3 日**

検査診断科 科長　岩田 純

学会会場前

5月1日～ 3日に開催された第98回日本病理学会に参加しました。観光都市である京都での学会がゴールデンウィーク中となったのは、参加者をもてなそうという真鍋俊明会長（京都大学医学部附属病院・病理診断部）の配慮であったようですが、ありがたい反面、宿の確保には苦労しました。しかし、会場となった国立京都国際会館は京都市北郊の宝ヶ池にあって、市街の混雑をよそに落ち着いた雰囲気が醸し出されており、恵まれた天候ともあいまって、環境的には申し分ありませんでした。

新型インフルエンザ感染疑い例が日本国内にも現れ始めた頃で、外国人旅行者の多い京都は、ある意味、日本で最も感染の危険性が高い地域ではなかったかと後で思ったものですが、幸い、その点でも問題は生じませんでした。

病理学というと基礎医学の範疇と考えられがちで、事実、病理学会でも一昔前までは基礎的な研究発表が中心となっていました。ところが近年では様相が変わり、実地医療に密接した人体病理関連の内容も充実してきています。日常の病理診断に有用な情報も多く、病院に勤務する私のような病理医にとっては、知識を新たにするよい機会と言えます。

例えば、毎回の恒例となっている病理診断講習会は、今回、脳神経、泌尿器、内分泌、骨軟部、心血管、婦人科をテーマに行われましたが、いずれにも多くの会員が詰めかけていました。その他にもコンパニオンミーティングとして、IgG4関連疾患、肝、消化管、皮膚、肺、唾液腺、骨髄、腎、甲状腺といった種々の分野に関する話題が討論されていました。

シンポジウムやワークショップの内容も多彩で、分子病理診断と分子標的治療といった専門的な題材に加え、社会的に問題となっている医療関連死やアスベスト関連疾患などが取り上げられており、また、「乳がんの診断と治療の最前線」というタイトルで市民公開講座が開かれるなど、一般社会との繋がりを意識した姿勢が伺えました。

昨今、かまびすしい医師不足の問題は、病理の分野でも深刻です。病理学会もこの点を重要視しており、今回の学会でも、人材育成や学生教育がシンポジウムの題材となっていました。

一般演題の発表は、口演と示説の二本立てという、どの学会でもよくある方式で行われました。ただし、示説発表の時間帯は、他のプログラムと全く重複しない別枠となっており、学会参加者が一堂に会して充分に討論できるようになっていました。

その間、久しく会わなかった同業の知人に遭遇し、話が弾むうちに時間が経って、肝腎の演題を見逃しそうになってしまうこともありましたが、たとえ可能な限り有効に時間を使ったとしても、その全貌を把握するのは困難だっただろうと思われるほど内容の充実した学会でした。

学会会場内の様子

# 地域医療連携病院のご紹介 Vol.43

## 医療法人裕香会　松本医院

〒781－6832　室戸市吉良川町甲2263
電話：0887（25）3455　FAX：0887（25）3486
URL:http://www.nmc.ne.jp/hp1/matumoto/
（診療科）
内科、外科

写真：松本諄院長（後列左から２人目）とスタッフの皆さん

医療法人裕香会松本医院は、重要伝統的建造物群保存地区の吉良川にある無症診療所です。病診連携、在宅診療をテーマに、素朴な医療を病診連携によってハイテク医療へと結びつけていくことを目指し、地域の皆さまに信頼され、地域に密着しています。また、その他にもう一つの目的として、土佐の建築の町並みを保存し伝統を守っていきたいというお話も伺いました。今回は、院長の松本諄（まこと）先生にお話を伺いました。
（A：高知医療センター　B：松本医院）

A：いつもお世話になります。まず、高知医療センターとの連携はいかがですか？
B：いつもたいへんお世話になっています。どの病院に紹介するか、それは患者さんの希望に従っています。医療センターを希望する患者さんが多いです。急を要する場合にはヘリ搬送を利用させていただいています。

A：患者さん搬送について、高知市内からは遠いですがヘリ搬送を含め、スムーズに行えていますか？
B：野市、南国、高知市に人が流れて、町が過疎化してきていますが、急変する高齢者の患者さんは増えています。先日も呼吸が止まりそうな患者さんのヘリ搬送をお願いし、その方は今も元気にしています。今までなら考えられなかったことです。ますますこれから高齢化となり、救急搬送が必要な患者さんが増えると思います。ヘリ搬送は大変強力です。また近い将来、芸西から、そしてさらには安芸から高知市まで高規格道路が通るそうなので、救急車搬送も楽に行えるとたいへん期待しています。

A：遠方の患者さん搬送の場合、途中中継で当院のスタッフが伺うことも考慮していますので、ご相談いただければと思います。
B：そうですね。高知市までの救急車による搬送は往復で3時間かかります。途中中継していただけると助かります。

A：地域医療で力を入れているところはありますか？
B：病診連携です。五感と第六感に頼る素朴な医療をハイテク医療に繋げる作業が自分の役割だと思っています。県立中央病院のときに一番印象に残っている症例ですが、風邪をひいたから診て欲しいと赤ちゃんを連れてお母さんが来られました。それは真っ白で本当に静かな赤ちゃんでした。具合の悪い赤ちゃんがこんなに静かにしているものだろうかと気になって病院に紹介しました。劇症髄膜炎でしたが、おかげで現在は元気に後遺症もなく成長され、ご家族とその時の思い出話をします。本当に運が良かったと思います。助かりそうにない症例も、上手くハイテク医療と連携をすることによって助かります。いかに連携を深めるかということ、自分の足りない力でも役に立つとしたら、それは連携プレーをしていくことだと思います。また、在宅医療を希望される患者さんには、それも可能ですよという選択肢を用意しておくことが私の役割だと思っています。

お忙しいなか取材にご協力いただきありがとうございました。

# NEWS Vol.2 高知医療センターエントランスでサツキ展を開催しています！

毎年この時期に恒例となっている、サツキが今年も色とりどりの花を咲かせ、医療センターのエントランスで来院する方々をはじめ、職員を癒しています。これらのサツキは、病院ボランティア「ハーモニーこうち」の梅田正幸さんが丹精を込めてお世話をしたものです。

展示してあるサツキは盆栽仕立てとは違い、花もの仕立てと呼ばれ、花を美しく見せるために栽培されたものです。１本の樹に３種類から７種類の花が咲くそうです。

写真：エントランスに展示しているサツキ（一部）

# 高知医療センター　イベント情報

| 日 | 曜 | 6月～ | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 土 | **第３回高知県輸血・細胞治療研究会** | | | |
| | | 内容 | **血液型抗原と臨床の関わり** | 講師 | 南大阪赤十字血液センター 谷 慶彦 氏 |
| | | 場所 | 高知医療センター２階　くろしおホール | 時間 | 13：30～16：00 |
| | | 主催 | 高知県輸血・細胞治療研究会　　参加料　1,000 円 | | |
| | | お問い合わせ：高知県輸血・細胞治療研究会 事務局、高知大学医学部附属病院 血液科 副部長 今井 潤 先生 | | | |
| 22 | 月 | **第３９回高知医療センター救命救急センター救急症例検討会** | | | |
| | | 場所 | 高知医療センター２階　くろしおホール | 時間 | 17：30～ |
| | | お問い合わせ：高知医療センター・救命救急センター | | | |
| 28 | 日 | **第９回口のリハビリテーション研究会** | | | |
| | | 内容 | **高知県下の口のリハビリテーションにたいする取組み**<br>～事例発表６題とシンポジウム～ | 事例発表演者 | 筒井病院　看護師　黒岩 雅代 氏 |
| | | | | | 細木ユニティ病院　看護師　岡本 朋子 氏 |
| | | | | | 仁淀病院　看護師　北村 喜美子 氏 |
| | | | | | 細木病院　管理栄養士　橋本 由佳 氏 |
| | | | | | 高知医療センター　歯科衛生士　野崎 愛 氏 |
| | | | | | 朝倉病院　医師　山本 賢治 氏 |
| | | 場所 | 高知医療センター２階　くろしおホール | 時間 | 13：00～16：00 |
| | | 共催 | 口のリハビリテーション研究会、株式会社大塚製薬工場　※参加料 1,000 円（学生は 500 円） | | |
| | | お申込み方法：6 月 12 日までに下記宛てに施設名、電話・FAX 番号、参加者名（フリガナ、職種）をお知らせください。 | | | |
| | | お問い合わせ：高知県歯科医師会　口のリハビリテーション研究会　事務局　津田 FAX：088（872）8011 | | | |
| 7/4 | 土 | **第７回地域医療連携研修会** | | | |
| | | 内容 | 未定 | 講師 | 未定 |
| | | 場所 | 高知医療センター２階　くろしおホール | 時間 | 14：00～15：40 |
| | | お問い合わせ：高知医療センター 地域医療連携室 大西 信子 看護部長 | | | |
| 9 | 木 | **第６回高知医療センター地域医療（内科系）症例報告会** | | | |
| | | 場所 | 高知医療センター２階　くろしおホール | 時間 | 19：00～ |
| | | お問い合わせ：高知医療センター 呼吸器・アレルギー科 土居 裕幸 | | | |
| 22 | 水 | **すこやかフロアワークショップ** | | | |
| | | 内容 | 小笠原まきさんをお迎えし、ワークショップを行います。 | | |
| | | 場所 | 高知医療センター４階　ホープさんの部屋 | 時間 | 14：00～15：00 |
| | | お問い合わせ：高知医療センター まごころ窓口 ボランティア「ハーモニーこうち」係 | | | |

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

## 編集後記

緑豊かな高知がよりいっそう輝きを増す季節になりました。「栴檀」が今は見頃、青空に向かってぐんぐん幹を伸ばし、さわさわと涼しげな葉を茂らせ、うす紫の愛らしい花を咲かせてよい香りを放っています。高知市の木でもあり、その実は生薬としても使われるそうです。4月に地域医療連携室に配属になり2ヶ月、今は主に病院車で転院の患者さんを搬送していますが、道中で緑を見る機会が増え、実況中継しながら、私も患者さんも緊張しないように心がけています。これまで関わりが少なかった業務に戸惑いながら、少しずつ自分のできる事を増やし役割が果たせるようにしたいと思っていますので、よろしくお願いします。（地域医療連携室　看護師 中島）

平成21年6月1日発行
にじ　6月号（第44号）
責任者：堀見　忠司
編集人：地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元：地域医療センター
地域医療連携本部
印　刷：共和印刷株式会社

高知医療センター
〒781-8555　高知県高知市池2125-1
ＴＥＬ：088（837）3000（代）

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
Kochi Health Sciences Center Home Page : http://www2.khsc.or.jp/